



TITLE:

新刊批評

AUTHOR(S):

CITATION:

新刊批評. 天界 1943, 23(260): 63-64

ISSUE DATE:

1943-01-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/168553>

RIGHT:

約 $1.7/2$, 位置角は約 130° である。

キルソン氏は、さきに、H. D. 219460星が、やはり珍しいヲルフ・ライエ型の連星であることを発見したことがある。[Ap. J. 91, (1940)] この方は間隔が少し廣いが、何れも、分星のスペクトルは WN5 及び B で、寫眞光度は大差が無い。

一般にヲルフ・ライエ星は、その特徴ある太い輝線のほかに、水素やヘリウムの吸収線が正常の位置(波長)にあることが知られてゐた。この二つの例により、輝線を現はす星と吸収線を現はす星とは別々であることが知れた。これによつて、一般に變位しない暗線のあるヲルフ・ライエ星は連星であると類推される。若し之れが誤りでなければ、ヲルフ・ライエ星中の連星は決して少くはあるまい。

今までに研究された19ケのヲルフ・ライエ星中、無變位の暗線を有つてゐるのは5星(H. D. 190918, 193576, 193793, 211853, 219460)であり、多少不確かなのは3ケ(H. D. 9974, 168206, 186943)ある。恐らく全體の4割ぐらゐは此の種の連星だらうと思はれる。

新刊批評

G. H. Dawin 原著、中野猿人譯 “潮汐” 東京 古今書院、6圓。

吾々が“つなみ”と呼ぶものを、英語では Tidal wave と言ふ。直譯すると“潮波”とでも言ふべきだが、誰でも知つてゐる如く、此の言葉は決して潮汐現象ではなくて、むしろ地震や暴風などに起因するものである。しかし、何も知らぬ人が此んな言葉を聞くと、やはり其れは潮汐に關係があるものかと迷はされることがある。理學の素養の無い單なる英語の學生なら此れを誤解するだらうし、又、生粹の英米人は、幼時から此の言葉を使つてゐて、やはり誤つた觀念のまゝ育つて行くのがあると思ふ。ダーキンの此の名著は、開卷の第一頁に、この英語(の俗語)の解説をやつてゐる。親切でもあり、又、多少のユーモアでもある。然るに、中野氏の此の譯本には、“つなみ”といふ日本語を一回も使つてゐないから、この肝腎の所の譯文が今少し食ひ足りない恨みがある。英文としては、原文のまゝで宜いのだが、日本語に直したのである以上、是非一度は“つなみ”といふ言葉を使つて置いて欲しい。

ダーキンの此の著は學界の名著であつて、1898年に原本が発刊されて以來、各國語に譯され、潮汐學の通俗書として既に古典的なものである。此の書が今日日本語版として出たのは喜ばしいことであるが、潮汐學の専門家である中野氏も、英語者としては多少不準備であつたか、或は譯を急がれたのか? 惜し

い誤譯や、不十分な點が多い。

自分は、原文と比較して讀んで見たが、第一章中にも、上記の Tidel wave のほかに、下の如き點が見つかった：—

第4～5頁 晴雨計と氣壓計としては如何？

第5頁 Atmospheric meteorological tide は大氣の潮汐でなく、大氣の氣象潮汐

第5頁 固體狀及びを固體狀でとし、熔融狀乃至はを熔融狀でとすべきである。

第6頁 天文學的の思索は空想とするが宜い。

第6頁第8行 ……見るであらう。でなしに、單に ……見る。で宜い。

第7頁第8行 正確は精密である。第9頁第1行にもある。

第7頁第12行 不注意なでなくて、最も不注意なである。

第8頁第2行 經驗にでなく實際經驗に。

〃 第8行 必要にでなくて非常に必要に。

第12頁第19行 スケールを變へてでなくてスケールを縮少して。

第13頁下より第5行 圓筒から取外したでなくて圓筒から擴げた。

第14頁第13行 制限されでなくて地形によつて制限され。

第15頁第10行 餘り現はれないでなくて餘りうるさくない。

第16頁第1行 小さなでなくてちよいとした。

第22頁第9行 Vaucher は、パウチェルでなくて、ヴァシェ

以下略するが、大體この調子で、誤譯もあり、又、原文にない不必要な語もある。——原文は敢て名文ではないが、一種の達文で、愉快に讀ませられる書物である。譯文も、何とかして今少し達文であつてほしかつた。(山本)

新十字星の發見

ペガソス座に美しい十字星があります。今から二ヶ月程前に氣がついたのですが、實に均整のとれた美しいものです。星は南十字星のやうに四つで、しかも四つとも白鳥座のやうに光度は強くありませんが、形はこの方が良いと思います。星名は、十字の頭が β 星、横木の右が η 星、左が μ 星、足が ι 星です。この中でも、 β 星が頭にあつて光度が強いので良い眺めです。この十字は私はまだ星の本で讀んだことがありませんが、そんなに有名なのではないのでせうか？ 誰か、この星の事を御存知かと思ひますが、あまり普及して居ないのでしたら、南の南十字星と、エセの十字星が並んでゐる如く、白鳥の北十字星のそばに、これがあることを書いて下さい。このやうな種類の事は、もう星座を卒業された人にも大へん興味のあることと存じます。

11月25日

神戸 長谷川 一郎

ヨ本曰く。大變面白いです。只、惜しいのは、この十字星の光度が一般に弱いことです。